

## 開催中の企画展

### 茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術

開催中～2月12日(日)まで

会場では、千利休が愛した黒樂茶碗「大黒」をはじめとする初代 長次郎の茶碗を、かつてない規模で展示しています。また展覧会の後半は「十五代吉左衛門の世界」と題して、造形性あふれる当代の作品の数々をご紹介します。長次郎と当代の間に流れる450年間という歴史。その中にはどのような“連続性”や“不連続性”があるのでしょうか？ぜひ、会場で各代の茶碗と対峙してみてくださいね。また、初代 長次郎《黒樂茶碗 銘 ムキ栗》や、長谷川等伯筆《千利休像》など、京都展のみの出品作品も多数あります。この機会に、ぜひ足をお運びください。会期の終盤は混雑が予想されますので、お早めのご来館がおすすめです。

★イベント追加決定★ 2月5日(日) 午後2時～、Julie Brook氏(アーティスト)と十五代 樂吉左衛門氏の連続対談を開催します！



初代 長次郎《黒樂茶碗 銘 万代屋黒》  
桃山時代(16世紀)、樂美術館蔵



十五代 樂吉左衛門《焼貫黒樂茶碗 銘 鳴谷》  
1989年、個人蔵

コレクション・ギャラリー特集展示  
「無限の宇宙：掌中を超えて」  
(2月12日(日)まで、4階にて)  
当館でしか見られない、企画展の  
スピノフ！どうぞお見逃しなく。



「Entrance of Universe Loop」と題した空間

## 次回企画展

### endless 山田正亮の絵画

3月1日(水)～4月9日(日)まで



山田正亮《Work C.92》1961-62年、  
横浜美術館蔵

もし仮に生きるということが、つきつめると起きて食べ寝ることの繰り返しであるならば、画家山田正亮(1929-2010)は、「絵画と契約する」ことによって、その生きることに絵を描くという営みをも加えてしまった人間です。50年以上ものあいだ、絶え間なく描き続けられた絵画作品の数は、約5,000点。彼は世俗や流行に背を向け、誰かにおもねることもなく、東京の郊外に構えたアトリエで、ひとりで制作を続けたのでした。

初めての本格的な回顧展となる本展では、生前公にされることになかった膨大な量の制作ノートの解析や、近年進められてきた専門家による諸研究を踏まえ、日本の戦後美術において唯一無二の活動を見せた山田正亮の全体像をご紹介します。各年代の主要な作品を網羅することはもちろん、多様な探究の足跡をうかがわせる紙作品、制作ノートなども展示することで、山田正亮の作品総体の、複雑で魅惑的なあり様を体感していただける場を目指します。



山田正亮《Work F.116》1992年、個人蔵

## イベント情報

### 講演会「山田正亮の絵画について」

日時：3月11日(土) 午後6時～7時30分

会場：当館1階ロビー

講師：中林 和雄(東京国立近代美術館副館長・本展企画者)

※ 先着100席/聴講無料(要観覧券)、当日午後5時より1階受付で整理券を配布

### ギャラリー・トーク

日時：4月1日(土) 午後2時～2時30分

講師：平井 章一(当館主任研究員)

※ 聴講無料(要観覧券)、開始10分前に1階受付にお集まりください

### 春休みワークショップ「だいへんしん！山田正亮の絵画」

日時：3月18日(土)、25日(土)、4月1日(土)

正午～午後3時(どなたでも、随時参加可能)

作品に登場する色だけを使って、オリジナルの絵を描こう！  
予約不要。詳細は当館ホームページをご覧ください。

## 友の会特別解説会

日時：3月18日(土) 午後5時～6時

集合場所：当館1階ロビー

※開始5分前までにお集まりください

解説者：平井 章一(当館主任研究員)

申込み先：京都国立近代美術館 総務係

電話：075-761-4114

(月曜から金曜まで、午前10時～午後5時)

メール：info@ma7.momak.go.jp

(件名は「友の会特別解説会申込み」としてください)

※お申込の際、お名前・会員番号をお伝えください

## コレクション・ギャラリー

平成 28 年度 第 5 回 コレクション展

開催中～2月12日(日)まで

日本画コーナー「ニワカニトリツクシ——酉年にちなんで」では、孔雀や鶏、ウズラなど、さまざまな鳥に出会うことができます。また「北欧の陶芸とテキスタイル」のコーナーは、厳しい寒さの中にどこかぬくもりを感じられる、北欧の冬の雰囲気包まれています。さらに洋画コレクションからは、長谷川三郎《蝶の軌跡》をはじめ、戦後の前衛美術運動をけん引した洋画家たちの代表作をご紹介します。今回の展示も見ごたえ十分です！



会場風景

### 【予告】平成 28 年度 第 6 回 コレクション展

2月15日(水)～4月16日(日)

#### 主なテーマ

抽象への道 | 早春の日本画 | 長谷川潔の詩的世界 など

## 今後の展覧会スケジュール

※展覧会名、会期について、都合により変更になる場合があります。

### キュレトリアル・スタディズ 12: 泉 / Fountain: 1917-2017 (仮称)

4月19日(水)～〈4階〉



アルフレッド・スティーグリッツ  
《リチャード・マットによる「泉」》  
1917年、当館蔵

マルセル・デュシャンがレディメイドの《泉》を出品してから今年で100年。この小企画では、一部展示替えをしながら本作品を1年間展示するとともに、さまざまなゲストを迎えて《泉》をめぐるレクチャーシリーズを開催します。

(講師予定：平芳幸浩、藤本由紀夫、河本信治、田中功起ほか)

### 戦後ドイツの映画ポスター

4月19日(水)～6月11日(日)〈4階〉

1950年代後半からドイツ統一の1990年までに制作された85点の映画ポスターを通じて、東西ドイツで花開いた二つのグラフィズムをご紹介します。関連イベントも多数！

『七年目の浮気』ポスター：フィッシャー＝ノスピツェ(1966年)、サントリーポスターコレクション(大阪新美術館建設準備室寄託)



### 技を極める—ヴァンクリーフ & アーペル ハイジュエリーと日本の工芸

4月29日(土・祝)～8月6日(日)

ハイジュエリーとして世界で高く評価されている、ヴァンクリーフ&アーペル。本展では、ジュエリー作品を歴史的に概観するだけでなく、日本とフランスの「技」に注目します。明治時代に制作された超絶技巧作品との対比の中で、フランスのハイジュエリーの技をご覧いただけるまたとない機会です。



展覧会ポスター

### 絹谷幸二展 (仮称)

8月22日(火)～10月15日(日)

### 岡本神草展 (仮称)

11月1日(水)～12月10日(日)

### ゴッホ展 巡りゆく日本の夢

2018年1月20日(土)～3月4日(日)

## イベント報告 友の会特別解説会を開催しました



当日の様子 (1月7日)

今回は、閉館後の「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」にて実施しました。まず、簡素な形と深い色合いが特徴的な、初代 長次郎の作品を鑑賞。茶碗の大きさから作り手の手の大きさが推測できることや、窯から取り出す時に挿んだ跡があることなどを説明すると、参加者の皆さんはケースに近寄り、ひとつひとつの作品を堪能しておられました。その後、それぞれの代に見られる現代性を紹介しながら会場を回りました。「楽茶碗はどのようにして焼くのか」、「長次郎の作品との連続性はどこにあるのか」など質疑応答も盛り上がり、皆さんの満足そうな表情がうかがえました。

京都国立近代美術館賛助会員

当館は下記、賛助会員の皆様からご支援・ご支持をいただいております。

<特別会員>

木下グループ

<一般会員>

ワコール

KYOCERA

中央信用金庫